

特集「響け、長崎の鐘」制作記（後編）

Singo Teshima & Yutaka Hoshino, August, 2015 at Ohsaka

原爆で倒壊した浦上天主堂の鐘を、瓦礫の下から掘り起こし、戦後43年間、鳴らし続けたカトリック信者、山田市太郎さん。その生涯を描いたラジオ特集「響け、長崎の鐘」が、このほど完成しました。長崎放送局と大阪放送局アナウンスによる、半年間のコラボレーションの舞台裏を、前編に続いてご紹介します。

ドラマという演出方法に、リアリティを求めて



今回の番組は、ドラマパートが全体の7割近くを占めています。ドラマという手法は、自由度が高く、制作者からすれば都合が良いのですが、今回のような番組の場合、リアリティが失われては、元も子もありません。どうリアリティを確保するか。脚本を執筆

する段階から、懸案でした。しかし、本読みに臨んでみると、主演の佐藤浩さん（上の写真、一番左）を始め、役者さんは、それぞれに長崎原爆の予習をされていて、役作りの熱心さに敬服しました。いかにリアリティのある芝居をするか。そのことは、役者さんが一番、気にかけてくれていたのです。



赤木野々花アナ、全国大会5位の腕前を披露

ドラマの中に挿入する、登場人物の心の動きを表す音楽。今回は、そんな劇中曲に、赤木野々花アナのハープ演奏を取り入れてみました。赤木アナは入局3年目。取材を担当する手寫真吾アナ（長崎放送局）の同期です。幼少の頃からハープ演奏を始め、学生時代には全国大会で5位に入賞した実績もあります。

先月21日、夕方の担当番組「ニュースほっと関西」のキャスター業務が終わった夜8時、BKの高品位音楽スタジオにハープを運び込み、往年のヒット曲「長崎の鐘」をアレンジして弾いてもらいました。赤木アナは、日頃から大舞台でも萎縮しない仕事ぶりに定評がありますが、この日の演奏も一回テストただけで、テイクワンOK。胆力のあるところを見せてくれました。赤木アナ、心臓、強いなあ〜♪♪♪



（左上、物見遊山の
森田アナと一柳アナ）

（左、副調整室には、
音声の精鋭が勢揃い）



音響デザイン・嶋野氏、マジック炸裂

オーディオ・ドラマの品質には、音響デザインの担当者のセンスが大きく影響します。今回は、BKが誇る音響デザインのエース、嶋野聡CPが、いざ出陣。

を述べてくれました。それは、技術部から参加した音声の林江美職員も同じ。シナリオを精読し、思慮深い意見をくれたおかげで、視野狭窄に陥って大切なシーンを落としそうになった私を止めてくれました。番組は、知恵を集めて作るもの。優れた仲間の有難さを噛み締めた日々でした。



(右、瓦礫の中から鐘を掘り出す時の音を再現)

(左、マジックハンドを持つ男、嶋野聡CP)

(右下、音声の林江美職員。機材に精通、頭脳明晰、めっちゃ美人)

大阪出身の嶋野CPは、数多くのBK朝ドラを手がけてきた経験豊富な効果マン。私の想像力を遥かに超えたところで、様々な音を準備し、制作チームに合流してくれました。

番組の中心軸になる鐘の音の処理や、ドラマの登場人物の心理を読み込んだ足音の芝居など、職人技の連続。私は、その腕前に、すっかり惚れ込んでしまいました。

今回、制作の過程で、放送時間を10分以上もオーバーし、どのシーンを落とすか、苦慮しましたが、そんな時、嶋野CPは、冷静な視点で的確な意見



ナレーションは、平和を語り続けてきた杉浦アナ

ナレーションは、被爆地・広島出身で、これまで数多くの原爆をテーマにした番組のキャスターや語りを担当してきた杉浦圭子アナにお願いしました。物語の背景を踏まえつつ語る、静謐なアルトの声は、番組に奥行きを与えています。



今回の番組制作から、手寫アナが得たものは・・・

番組は、無事、先月23日午後に完成。制作を終えて長崎に戻った手寫アナから、以下のコメントが届きました。

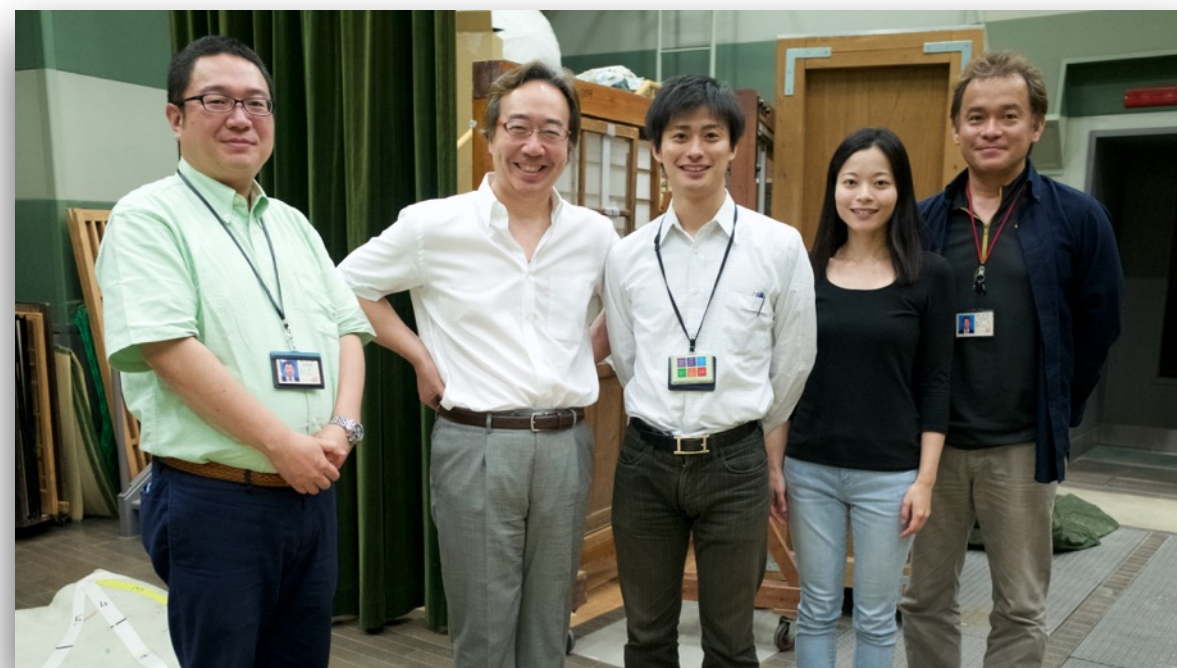
「2月中旬から、市太郎さんの戦後生まれのご子息や、天主堂の関係者、市太郎さんと平和運動に尽力した被爆者など、所縁のある人をリストアップし、訪ね歩く《証言集め》を続けてきました。やがて、亡くなる直前に書き遺した手記や、引退を告げられた際のやりとりなど、貴重な証言を得ることが出来ました。広く網を張る取材から、テーマと人物像を絞り込んだ取材へ、戦後史に埋もれかけ

た人物の思いや生きざまを、歳月を超えて発掘することは、タイムマシンの旅のようでもあり、とてもスリリングでした。

平和を願って鐘を鳴らし続けた市太郎さんの生涯を伝える使命感と、番組に関われる喜びに支えられ、取り組んだ半年間でした。戦後70年の今年、被爆地に勤務する者として、こうした番組に関われたことを誇りに思っています。長崎放送局アナウンス 手寫真吾」

私たちが過去から学ばなければならないこと

被爆から70年。被爆者の平均年齢は80歳を超え、その証言を直接、得ることは、いよいよ難しくなってきました。しかし、私たちは、様々なアプローチで、かつての戦争がもたらした惨禍を、冷静に正確に、後世に伝え続ける役割と、責任を担っています。今回の番組も、そんな思いで作りました。節目の年の夏の夜、改めて、平和の尊さを考えるきっかけにして頂ければ幸いです。大阪放送局アナウンス 星野豊。



特集「響け、長崎の鐘」8/9（日）21：05-21：55 R1 全国